主に呼び出されて

塩山 宗満
茂原バプテスト教会牧師

「福音のためなら、わたしはどんなことでもします。それは、わたしが福音に共にあずかる者となるためです。（コリントの信徒への手紙一９章23節）」

私が主イエスと出会ったのは中学時代に友人に誘われて熊本バプテスト教会（現熊本愛泉教会）に通い始めたときでした。毎週お話を聞いているうちに、この方主イエスに従っていけば私の人生は間違わない、との思いが与えられ、高校一年の時に信仰告白をし、バプテスマを受けてクリスチャンになりました。
当時の熊本教会は青年が大勢集まり、その中から牧師になる献身者が次々と起こされていたのですが、私は信徒として神様にお仕えして行こうと、献身の呼びかけには抵抗して技術者への道を選び、学校のこともあって東京へ出ていきました。

多国語看板

三鷹バプテスト教会に籍を置いて、当時の高度成長期の日本社会の中でコンピュータ関連の会社で働き人間を続けていました。教会では学生の時から執事に選ばれ、教会学校教師や聖歌隊などの様々なかかわりを持っていました。教会で信徒が担う役割は殆ど経験してきました。仕事の関係で長期の米国駐在所勤務などがたびたびあり、アメリカでは現地の教会で信仰生活を送りました。その間、執事に選ばれたり、アメリカに来ている主にアジアからの留学生たちの教会学校のクラスを担当したりもしていました。
27 年間勤務した事業所が使命を終えて閉鎖になったときに、一時的に外資系の若い会社に勤務したのですが、ある時突然解雇されてしまいました。次の仕事はすぐ見つかったのですが、このときに私の生涯はこれで終わっていいのかという思いが脳裏をかすめました。そこで祈りのうちに導かれたのが東京バプテスト神学校で学ぶ、ということでした。働きながら学んでいく内に徐々に牧会者になれという示しが与えられ、その思いがわたしの内に育ってきました。そして、祈った末に教会の推薦を得て専攻科へ進みました。営業職だったので、仕事が忙しく、本科、専攻科を合わせて修了するのに7年かかりましたが、卒業時点で招聘を戴いたのが茂原教会でした。62歳の新米牧師の誕生です。
振り返ってみると、キリスト者になってから40年の間に、何度か献身への招きがあったように思います。そのたびにわたしは信徒として主に仕えるのだ、と意地を張って、抵抗していました。けれども主はとうとうわたしを捕まえて離しませんでした。これをお読みの皆さんにも神からの呼びかけがどこかであるのではないでしょうか。
茂原に招かれてから20年が過ぎました。茂原の町は人口10万人足らずの小さな町です。教会は現在会員は43名、礼拝出席が35-40名といった小さな群れです。
わたしたちの教会は誰もが集まれる教会をめざしています。では、誰もが集まれる教会とはどんな教会なのでしょうか。わたしも関わっていた日本バプテスト連盟の障がい者と教会委員会が全国の教会にお願いしていることが三つあります。一つは会堂をバリアフリーにして、車椅子やお年寄りが自由に礼拝出席できるようにすること。もう一つは点字の聖書、讃美歌をそろえておくこと。さらに手話通訳がいれば良いけれど、最低受付にノートか小さなホワイトボードを用意しておいて、聞こえない人たちが来られたらコミュニケーションが取れるようにしておく、ということでした。茂原教会は5年前に点字聖書と讃美歌で35冊分の場所を確保したのでこの3点が揃いました。
「誰もが集まれる教会」として行ってきたことの一つに、礼拝の YouTube 配信があります。今ではどこでも行っていますが、難病や家族の世話で礼拝に来ることができなくなった方のために、8年ほど前から配信を始めました。
13年前に聞こえないご夫婦が出席するようになったので、礼拝には手話通訳が付けられています。月に1度手話の会を持っています。
それから、訪ねてこられる外国籍の人たちが増えてきました。教会学校の働きに、英語科が追加され、英語での聖書研究・祈祷会などの活動が広がり、月に一度は日英合同礼拝を持っています。外国籍の皆さんのこどもたちへの対応を模索しています。
このようにいろいろな方たちを迎えるためには柔軟な心備えが必要、専門知識や技術を持った人材が必要、設備が必要、と課題もたくさんあります。教会が生まれてから今年で25年、さらなる課題へのチャレンジを教会員一同祈っています。

「第５９回全国壮年大会 西九州大会を終えて」第５９回全国壮年大会実行委員長　野中 滋生（相浦光教会）

第５９回全国壮年大会西九州大会は、去る８月２４日（土）に長崎バプテスト教会を発信教会としてＺｏｏｍで開催し、全国から２４１名の参加登録をいただき、無事に終了することができました。
西九州地方連合壮年会が実行委員会を組織して、２０２１年１２月４日（土）に第１回実行委員会を行い、以来計２６回の実行委員会で協議、検討を重ね、そして、この間に大変多くの方々にご協力をいただき、大会に臨みました。
皆様方に心からお礼を申しあげますとともに、これまで主が共にいて導いてくださり、励まし力を与えてくださったことに対し、心から感謝をささげます。
さて、今回の大会はテーマを「協力伝道」とし、西九州という「地方からの発信」にこだわって、「西九州地方連合の取組をとおして」「事例発表」を中心に行う大会とさせていただきました。
主題聖句は、ルカによる福音書２４章３２節、『「わたしたちの心は燃えていたではないか」～臨在の主に、心燃やされて～』として、芦谷隆時兄に主題説教していただき、続いて西九州地方連合の紹介（中島一弘兄）、事例発表１「西九州地方連合と五島教会との交流の歩み」（木村幸治兄）、事例発表２「西九州地方連合内献身者の働き」（李守殫牧師）を行いました。
そして、質疑応答の後、九州バプテスト神学校宣教センター長松見俊先生に、今後に向けたアドバイスをいただきました。
最後に、閉会礼拝では、ルカによる福音書５章３３～３９節より「新しいぶどう酒」と題して長崎バプテスト教会曹銀珉牧師に説教をしていただき、大会を終了いたしました。
大会のために、それぞれ大変お忙しい中に準備をし、尊い働きをしていただきました奉仕者の方々に対しまして、心よりお礼申し上げます。
今回、積極的にＺｏｏｍを活用して大会を作り上げたという点では、初めての試みだったかもしれません。準備段階、また大会開催の中で、その技術・知識や経験を持った若い実行委員会メンバーの働きや、西九州地方連合内の若い方々の協力が大きな力となり、大会のスムーズな進行につながりました。さらに、日ごろから積極的にネット関係を活用されている長崎バプテスト教会を発信教会としてこの大会のために使わせていただいたことも、大変大きかったと思います。
　また、この全国大会を２６年ぶりに担当するにあたり、全国壮年会連合新旧役員、事務局の皆様に大変お世話になりました。そして、多くの方々にご参加いただき、信仰を同じくする人たちが全国にいらっしゃるということを西九州の地から実感することができました。感謝いたします。
最後になりますが、全国の諸教会、伝道所で「協力伝道」の働きがますます広がりますように祈り、第５９回全国壮年大会の報告といたします。

「第60回全国壮年大会に向けて」　第60回全国壮年大会実行委員長　戸田 浩司（西川口教会）

第60回全国壮年大会は北関東地方連合の担当で2025年8月22日（金）、23日（土）の2日間の日程で、埼玉県さいたま市にある日本バプテスト浦和キリスト教会を会場として、オンラインでもご参加いただけるようにハイブリッド開催とする予定で、現在準備を重ねています。
　今回の第60回大会では日本バプテスト連盟宣教研究所の朴思郁所長に主題講演をご担当いただけることとなりました。そして大会のテーマを

これからの No Border な教会の話をしよう！
ー教会が「教会」であり続けるためにー

と定めました。
　「No Border」というキーワードの捉え方は一人一人異なると思いますが、立場、性別、国籍、その他さまざまな「Border」（境界）を私たちは意識する場面が多々あります。
そんな環境の中でこのテーマが今の私たちに問われているのではないか，という思いに至りました。
現代の教会が抱えている様々な Border を受け止めながら、主イエスの時代にも多くの境界によって悩み苦しんでいた人々に、イエスがその境界を越えて手を差し伸べてくださった事柄に目を向けたいと思います。そして私たち現代の教会が、主から望まれている姿の「教会」であり続けるためには、どのような教会形成を目指すのか、共に意見を交わし、考え、分かち合いたいのです。
大会プログラムのさらなる詳細につきましては追ってお知らせいたしますが、来年夏の第60回大会にどうぞ奮ってご参加ください。皆様とのお交わりを心待ちにしています。